

和歌山県立高等学校再編整備  
第2期（前期）実施プログラム

平成22年3月17日

和歌山県教育委員会

## はじめに

近年、高等学校で学ぶ生徒の多様化や生徒数の減少が続く中で、全国的に公立高等学校における特色ある学校づくりや再編整備についての検討が進められています。和歌山県においても、中学校卒業生数は、平成元年3月をピークとして減少傾向を続け、今後とも減少することが見込まれます。

また、生徒の興味・関心や進路希望が多様化する中で、それに適切に対応したより魅力的な高等学校づくりを進め、一人ひとりの生徒の力を伸ばす教育を推進することが求められています。

こうした状況において、県教育委員会では、第4期きのくに教育協議会の報告書に盛り込まれた提言等に基づき、高等学校の統合や再編、中高一貫教育校の設置、多部制定時制高校の設置等を内容とする県立高等学校再編整備計画を平成17年5月に策定し、平成18年度から平成20年度の再編整備について、第1期実施プログラムとして進めてきたところです。

今回、策定したプログラムは、第1期実施プログラム後の状況及び今後の動向の分析、また、当該地域や学校関係者等からの意見等を踏まえ、特別支援学校の過大規模化解消を考慮した和歌山市地域の再編整備、県内全域における定時制・通信制教育の充実について、第2期の前期（平成23年度～24年度）のプログラムとして予定している内容を示したものであり、順次計画を具体化し進めていくこととしています。

## 「和歌山県立高等学校再編整備第2期（前期）実施プログラム」

この実施プログラムは、「県立高等学校再編整備計画」に基づき、平成23年度から平成24年度に取り組む高校再編整備の具体的な内容を示したものです。

### 1 和歌山市

- 特別支援学校の過大規模化と児童生徒の現状に即し、新設校を設置します。特別支援学校は、和歌山西高等学校と和歌山北高等学校の統合校の西校舎（現和歌山西高等学校）の敷地を生かして新設することとし、知的障害及び肢体不自由の児童生徒を対象とした小学部・中学部・高等部を併せ持つ学校とします。
- 和歌山市の生徒の減少への対応や今後のさらなる発展を図るため、和歌山西高等学校と和歌山北高等学校を統合し、それぞれの校地・校舎は統合校の西校舎、北校舎の2校舎として展開します。

#### 1-1 特別支援学校の新設

関係校	再編整備の方針
紀伊コスモス支援学校	平成24年度に、特別支援学校を新設します。 校区は、紀ノ川以北で鳴滝川以西の地域（現紀伊コスモス支援学校園部分校校区に同じ）とし、紀伊コスモス支援学校園部分校小学部・中学部の児童生徒及び校区に当たる地域に在住の紀伊コスモス支援学校（本校）に通学している児童生徒を転籍します。 このことに伴い、紀伊コスモス支援学校園部分校は閉校とします。 なお、新設される学校のあり方については、これまでの県立特別支援学校における教育活動等を勘案して検討します。

#### 1-2 和歌山西高等学校と和歌山北高等学校

対象校	再編整備の方針
和歌山西高等学校 和歌山北高等学校	平成24年度に、和歌山西高等学校と和歌山北高等学校を統合し、統合校の西校舎には特色ある普通科と体育科、北校舎には普通科を置きます。 平成22年度及び23年度の両校の入学生については、いずれも入学校での卒業とします。 なお、統合後の学校のあり方については、これまでの両校の教育活動や地域の実情等を勘案して検討します。

## 2 定時制・通信制教育

- 定時制・通信制教育の充実を図るため
  - ・学習ニーズに合わせた自由に学べる学校づくり
  - ・学び直しやリカレント教育、生涯学習などの充実

※リカレント教育：職業人を中心とした社会人に対して学校教育の修了後、いったん社会に出た後に行われる教育

- ・県内どこでも学べるシステムづくり

を基本とし、県内どの地域からでも学びやすい体制づくりを進めます。

- 県内どの地域からでも学びやすい体制づくりのため、定時制課程と通信制課程を併置した中心校を設け、定時制・通信制教育の拠点とします。拠点となる中心校は、定時制、通信制の両課程を併せ持った学校として、県内に3校（紀の川高等学校、青陵高等学校と陵雲高等学校の統合校、南紀高等学校）を設けます。
- 拠点となる中心校は、定通併修等において、近隣の全日制高等学校に併設の定時制課程をサポートします。また、通信制課程について、学びやすい体制づくりを進め、県内全域をカバーします。併せて、ニーズに応じた時間割設定を行い、スクーリングの一層の充実、単位認定のシステムづくりなどを進めます。

### 2-1 南紀高等学校と陵雲高等学校

対象校	再編整備の方針
南紀高等学校 陵雲高等学校	平成23年度に、南紀高等学校に通信制課程を設置し、定時制課程と通信制課程を併せ持つ学校とします。 これに伴い、陵雲高等学校の田辺学級、新宮学級については、南紀高等学校（本校）及び南紀高等学校の新宮学級として継続します。 平成22年度以前の入学生（田辺学級、新宮学級）については、陵雲高等学校での卒業とします。（ただし、平成26年度以降在籍する場合は、南紀高等学校に転籍となります。）

### 2-2 青陵高等学校と陵雲高等学校

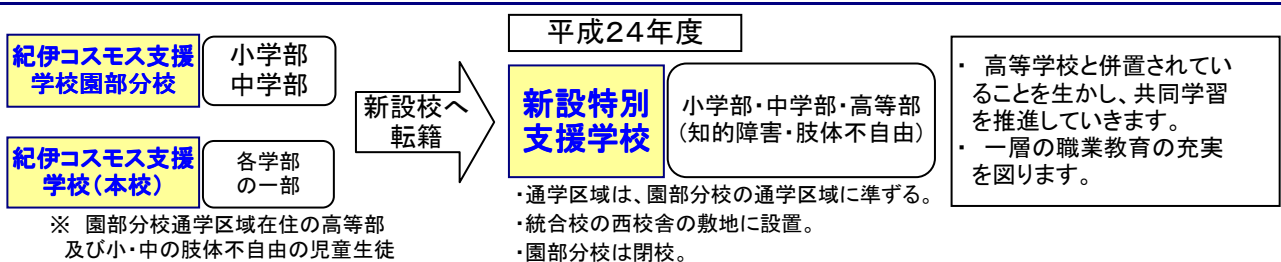
対象校	再編整備の方針
青陵高等学校 陵雲高等学校	平成24年度に、青陵高等学校と陵雲高等学校を統合し、定時制課程と通信制課程を併せ持つ学校とします。 平成23年度以前の入学生については、いずれも入学校での卒業とします。（ただし、平成27年度以降在籍する場合は、統合校に転籍となります。） なお、統合後の学校のあり方については、これまでの両校の教育活動や地域の実情等を勘案して検討します。

# 和歌山県立高等学校再編整備 第2期(前期)実施プログラムについて

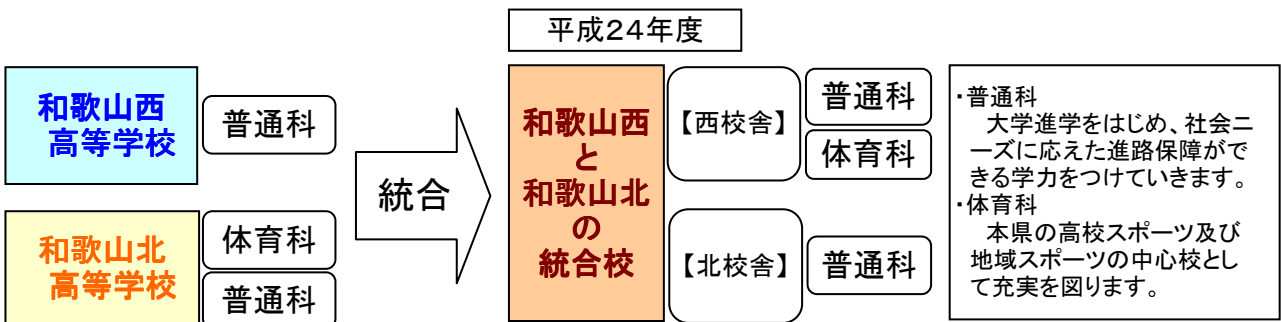
本県県立高等学校教育の一層の振興・充実を図るため、第2期(前期)再編整備計画(平成23年度～平成24年度)として、次のとおり再編整備等を実施します。

## 1 和歌山市

- 特別支援学校の過大規模化と児童生徒の現状に即し、新設校を設置します。特別支援学校は、和歌山西高等学校と和歌山北高等学校の統合校の西校舎(現和歌山西高等学校)の敷地を生かして新設することとし、知的障害及び肢体不自由の児童生徒を対象とした小学部・中学部・高等部を併せ持つ学校とします。
- 和歌山市の生徒の減少への対応や今後のさらなる発展を図るため、和歌山西高等学校と和歌山北高等学校を統合し、それぞれの校地・校舎は統合校の西校舎、北校舎の2校舎として展開します。



- ・平成24年度に、特別支援学校を新設。
- ・校区は、紀ノ川以北で鳴滝川以西の地域(現紀伊コスモス支援学校園部分校校区に同じ)。
- ・紀伊コスモス支援学校園部分校小学部・中学部の児童生徒及び校区に当たる地域に在住の紀伊コスモス支援学校(本校)に通学している児童生徒を転籍。
- ・紀伊コスモス支援学校園部分校は閉校。(新設特別支援学校への移管終了後)



- ・平成24年度に和歌山西高等学校と和歌山北高等学校を統合。
- ・西校舎に普通科と体育科、北校舎には普通科。
- ・平成22年度及び23年度の両校の入学生については、いずれも入学校での卒業。
- ・統合後の学校のあり方については、それぞれの学校の教育活動等を勘案して検討。

平成24年度	1年生 統合高等学校	2、3年生 和歌山西高等学校 和歌山北高等学校
平成25年度	1、2年生 統合高等学校	3年生 和歌山西高等学校 和歌山北高等学校
平成26年度	全学年 統合高等学校	

- ・和歌山西高等学校と和歌山北高等学校の統合校の西校舎の敷地に特別支援学校が新設されることから、お互いに連携を図りながら教育活動を進めていきます。
- ・両校の連携内容については、それぞれの学校の教育活動等を勘案して検討します。

## 2 定時制・通信制教育

○ 定時制・通信制教育の充実を図るため、

### ・学習ニーズに合わせた自由に学べる学校づくり

中学校新卒者はもちろん、勤労青少年や自らの学習スタイルを求める者等に対応し、果たすべき役割の見直しとそれを踏まえた教育など質的な充実等を進めていきます。

### ・学び直しやリカレント教育、生涯学習などの充実

不登校経験者、中途退学者の学び直しやリカレント教育など、多様な生徒を受け入れる柔軟なシステムをもつ学校として、基礎学力の充実、単位の修得相談や高等学校卒業のサポート、興味・関心のある分野の力を伸ばす教育など、生徒の「学び」の充実を図ります。また、県民の「学び」に対応した講座を開催するなど、生涯学習の拠点としての役割を果たします。

※リカレント教育：職業人を中心とした社会人に対して学校教育の修了後、いったん社会に出た後に行われる教育

### ・県内どこでも学べるシステムづくり

定時制・通信制を併せ持った拠点となる学校を中心として、近隣の全日制高等学校に併設の定時制課程をサポートします。拠点となる中心校では、定時制・通信制教育の充実はもちろん、生徒が自由に選択して学べる教科・科目等を設定します。また、県内どの地域からでも学びやすい体制づくりを進めます。

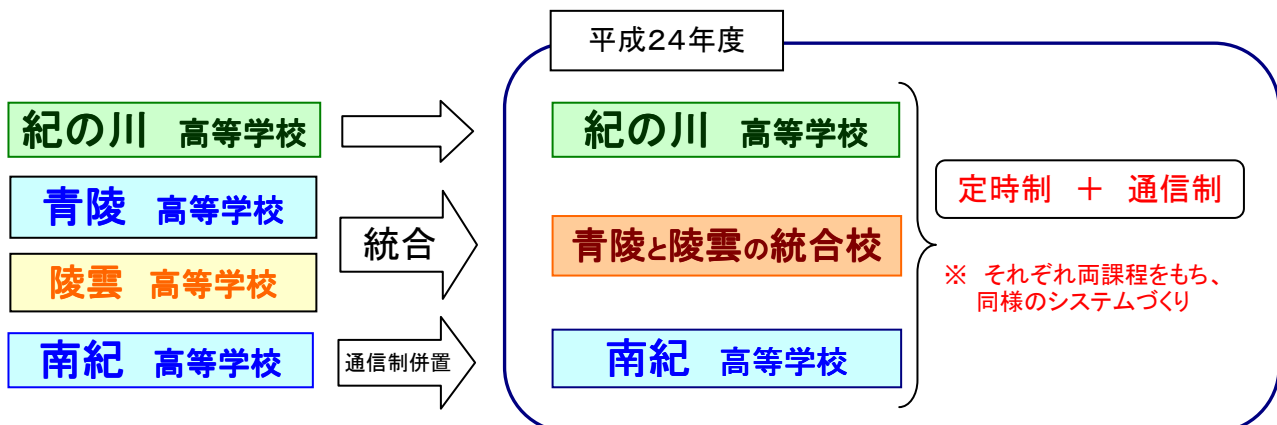
を基本とし、県内どの地域からでも学びやすい体制づくりを進めます。

○ 県内どの地域からでも学びやすい体制づくりのため、定時制課程と通信制課程を併置した中心校を設け、定時制・通信制教育の拠点とします。拠点となる中心校は、県内に3校(紀の川高等学校、青陵高等学校と陵雲高等学校の統合校、南紀高等学校)を設けます。

○ 拠点となる中心校は、定通併修等において、近隣の全日制高等学校に併設の定時制課程をサポートします。また、通信制課程について、学びやすい体制づくりを進め、県内全域をカバーします。併せて、ニーズに応じた時間割設定を行い、スクーリングの一層の充実、単位認定のシステムづくりなどを進めます。

### 3拠点校を中心とした学びのための環境づくり

定時制課程と通信制課程を併置した中心校を設け、定時制・通信制教育の拠点とします。拠点となる中心校は、定時制、通信制両課程を併せ持った学校として、近隣の全日制高等学校に併設の定時制課程と連携しながら、学びやすい体制づくりを進め、県内全域をカバーします。



## 南紀高等学校・陵雲高等学校

- 平成23年度に、南紀高等学校に通信制課程を設置し、定時制課程と通信制課程を併せ持つ学校とします。
- 陵雲高等学校の田辺学級、新宮学級の学習については、南紀高等学校(本校)及び南紀高等学校の新宮学級として継続します。現状、週1回のスクーリング日の開講時間のみの対応ですが、今後、スクーリングのあり方や生徒のケアについても充実を図ります。(新宮学級についても、一層、生徒のサポートができるよう検討します。)
- 平成22年度以前の入学生(田辺学級、新宮学級)については、陵雲高等学校での卒業とします。(ただし、修業年限4年以内の卒業とし、これを超える場合は、南紀高等学校に転籍となります。)

	23年度以降入学者	22年度以前の入学者
平成23年度	南紀高等学校	陵雲高等学校
平成24年度	↓	陵雲高等学校
平成25年度		陵雲高等学校
平成26年度		南紀高等学校

## 青陵高等学校・陵雲高等学校

- 現在、同一の校舎内に青陵高等学校と陵雲高等学校が併置されていますが、平成24年度に統合して、定時制課程と通信制課程を併せ持つ学校とします。
- 拠点となる中心校としてわかりやすく、また、学びやすい学校とするとともに、教室等施設について、生徒ニーズに対応した活用を図ります。
- 平成23年度以前の入学生については、いずれも入学校での卒業とします。(ただし、修業年限4年以内の卒業とし、これを超える場合は、統合校に転籍となります。)
- 統合後の学校のあり方については、それぞれの学校の教育活動等を勘案して検討します。

	24年度以降入学	23年度以前の入学者
平成24年度	統合高等学校	青陵・陵雲各高等学校
平成25年度	↓	青陵・陵雲各高等学校
平成26年度		青陵・陵雲各高等学校
平成27年度		統合高等学校

## 3拠点校を中心としたシステムづくり

### 伊都・那賀 地域

拠点となる中心校

**紀の川高校**

連携校

**粉河高校**

### 和歌山・海草・有田 地域

拠点となる中心校

**青陵・陵雲  
統合校**

連携校

**和歌山工業高校、海南高校  
海南高校下津分校、耐久高校**

### 日高・西牟婁・東牟婁 地域

拠点となる中心校

**南紀高校**

連携校

**日高高校、南紀高校周参見分校  
新宮高校**

### 拠点となる中心校

- 定通併修の中心
- ニーズに応じた時間割設定  
昼間部(午前)..... 4限  
午後 ※選択授業の充実(4限)  
夜間部 ..... 4限
- スクーリングの一層の充実
- 単位認定のシステムづくり

### 連携校へのサポート

- 定通併修
- 中心校午後の授業の受講
- リカレント教育等への対応

※ なお、全日制課程に併設の定時制課程にあっては、県立高等学校入学者選抜による入学者数が2年続けて募集定員の20%に満たない場合は募集停止となります。